

学位被授与者氏名	王 茹 (おう じょ)
論文題目	「授受関係」から「主観性」への拡張 — 「～てくれる」表現についての日中比較研究
論文審査結果の要旨	<p>視点と主観性は認知言語学と語用論研究の「人気テーマ」として世界各国の言語学者に注目されている。Langacker (1985)の「自己中心的視点構図 (egocentric viewing arrangement)」と (1998)の「主体化 (subjectification)」などの論述はまさに日本語の「(天気が) 晴れてくれた」のような授受関係表現から主観性表現への拡張に対するぴったりあった理論的まとめであると言えよう。従来の研究と教育には「～てくれる」＝中国語の“给”という定説があるが、主観性表現に拡張した後の対応に関する詳しい研究はまだ見られていない。修論としてこの研究テーマを選択する自体は斬新性があり且つ理論的な意義があり、評価できると思われる。</p> <p>本論の第3章でまとめられた「代行を表す『～てくれる』と“替”・“帮”」「目的を表す『～てくれる』と“为”・“为了”」「対象者を表す『～てくれる』と“对”・“向”」「同動者を表す『～てくれる』と“和”・“跟”」「間接行為を表す『～てくれる』と中国語の一部の特定な動詞」「使役受身行為を表す『～てくれる』と“让”・“使”“叫”」「他意志行為を表す『～てくれる』と中国語の一部の特定な動詞・形容詞」との対応関係は、中国語の表現で授受関係を表す『～てくれる』の確かに主観性への拡張があることを証明しただけでなく、これからの類型論研究と第二言語教育にも参考になると考えられる。</p> <p>しかし、筆者は中国語母語者であるので、母語の語感で日本語の用例を理解し、分析したところがあり、研究対象の「文類」を区別せずに、叙述文と命令文を混同し、また本動詞の「くれる」と補助動詞の「くれる」を混同させた論述も見られる。</p> <p>平成25年2月21日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館320教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>